

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470400274	事業の開始年月日	平成11年3月25日
		指定年月日	平成12年3月1日
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会		
事業所名	グループホーム クロスハート中・横浜		
所在地	(〒231 -0056) 神奈川県横浜市中区若葉町3-46-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成29年10月28日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が施設を「自身の生活の場」として、その人らしく生き生きと暮らすことができるよう、自立支援と尊厳保持を基本に職員は、入居者の介護と生活のお手伝いに携わっている。法人内で人権の研修があり、中・横浜の人権宣言として「できることを大切に、見守る」を決めた。 法人の品質方針は「つなげる、つなげる」中・横浜の29年度目標は「ちょこっとレク」として施設内で閉塞的にならないように、メリハリの生活が送れるようにするため、買物、散歩、歌、体操、カフェレクなどちょっとした時間を、利用し写真に残す。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年11月10日	評価機関 評価決定日	平成29年12月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点 ◇地域との活発な交流 自治会に加入し、運営推進会議で事業所や地域の情報を交換し交流している。地域のお祭り(8月)の屋台の食材準備、餅つき(12月)などに利用者が参加し、事業所に毎月ボランティアを受け入れ、利用者は大正琴の演奏を楽しみ、歌、工作などを楽しんでいる。事業所の避難訓練に自治会や地域住民が参加し、緊急時の対応に備えている。 ◇職員の資質向上を目指す研修体制 年間研修計画があり、認知症・食中毒・衛生管理(7～8月)、身体拘束・虐待禁止(9～10月)、感染症・ノロウィルス対応(11～12月)、看取り・高齢者の病気・個人情報・プライバシー(1～3月)を事業所内で研修している。設置法人の「全スタッフカレッジ」に全職員が順次参加し、基本理念・尊厳・非常災害時対策などを学んでいる。 【事業所が工夫している点】 ◇投薬に関する徹底した管理 薬剤師が個人別薬袋に日付・朝・昼・夕・夜別の色識別を施し、遅番職員が当日棚にセット、夜勤職員が個人別の薬内容をチェック、投薬時は昼勤職員2人で間違いなく投薬したことを確認し、かつ、飲み忘れのないことを棚の空薬袋で確認、念のため空薬袋を2日間保管してフォローしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	クロスハート中・横浜
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とベーシックは月1回のスタッフミーティングで共有している。 自立支援の介護が行えるように取り組んでいる。	・法人理念「たくさんのよきものを人生の先輩たち、後輩たち、地域に捧げる」を掲示し、ベーシック7項目（お客様から学ぶ、今を大切に、地域のお役に立つ等）を毎月のミーティングで確認して、職員の日常活動のベースにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。町内会の季節行事に入居者共々参加。今年度は2年に1度の祭りがあったが、生憎の雨で少人数しか参加できなかった。 管理者は町内の防犯パトロールに参加している。	・利用者は地域行事のお祭り(8月)の屋台の準備、餅つき(12月)などに参加し、また、毎月ボランティアを受け入れて大正琴、工作、歌等を楽しみ、地域の一員として過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域（町内会等）に、高齢者施設が存在することを認知していただけるように働きかけを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、家族会の外出は施設側から決めず、運営推進会議で決めた。 活動写真が楽しみと介護相談員からあり。	・町内会長、民生委員、介護相談員、家族、地域包括職員をメンバーとして2か月ごとに開催している。 ・事業所の活動状況報告のほかに、健康管理、事故防止、行事の案内、その他について意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの方が運営推進会議に出席してくださるため、施設の様子を理解している。 生活保護課の担当者が、事業者の利用者の状況を見に訪問している。	・介護保険更新手続き、情報交換など、中区役所職員と密に連携している。 ・横浜市グループホーム連絡会の総合研修(グループホーム交換会等)に参加したり行政情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口はエレベーターであるが、非常口は開錠している。「ドアを開く」ということが、入居者様「縛られていない」との思いに繋がっている。10月研修を行った。	・身体拘束防止マニュアルがあり、内部研修（身体拘束・虐待の禁止）を行っている。 ・出入り口のエレベーターは施錠しているが、フロア内、非常口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し、社内研修等で、虐待防止についての研修を行う予定。拘束、虐待のない施設として継続していけるようにする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は全社会議などで学ぶ機会はあるが、職員への周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、契約書や重要事項説明書を用いりながら、管理者が音読し、わかりにくい部分は説明をつけながら、適宜質問を受け、疑問や不安を解消し、理解と納得につなげる		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、全入居者の家族、地域の方々に案内を出している。	・家族の意見は事業所への来訪時に、利用者の要望は日常生活を通じて把握するように努めている。 ・家族参加の外出行事については、運営推進会議の際に、行き先を意見交換して決めた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「理事長への手紙ボックス」は職員が口では言えない事等を代表者へ届けるものとなっている。管理者はミーティングで職員の意見を聞く場を作っている	・年1回の管理者・スタッフ面談、毎月のスタッフミーティング、日常会話を通して職員の意見や提案を聞いている。 ・ケア方法に関する意見、必要な物品の購入に関する内容が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤続年数、経験、資質、性格勤務態度を把握し、個々の資質・能力に応じた役割を与え、やりがいや向上心につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルや資質に応じて研修内容を判断し、職員の希望する研修を考慮して決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修等では、他の施設の方々と一緒に学ぶことが出来、様々な情報共有が行え、自施設での取り組みへの参考につなげる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活リズムを尊重し、施設生活の不安解消につなげるため、声掛けにより関係をきずいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時には、ご家族様へ施設の方針や取り組み、認知症入居者が生き生き生活している等伝え、「ここなら安心して家族を預けられる」という思いにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況、性格、生活歴、現在の症状等を含め、じっくり話を聞き必要な支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、買い物、調理、下膳等の家事を一緒に行い、その際には入居者が主体的に行えるようにかかわり方を工夫している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、家族へ入居者のご様子を書面にて報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や親せき等の方々の来訪時には、施設として丁寧に関わり、施設に足を運びやすい雰囲気や関係作りに努めている。	・かつて通った商店街や馴染みの場所に職員が支援して行くことがある。 ・家族や親せきは来訪するが、友人、知人が訪れることはない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者の個々の心身の状況を把握し、席の位置や声掛け方法に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居先を変更された方について、契約終了後ご様子を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアカンファレンスの際に、前プランを確認し、日常の様子観察の中から利用者の個々の思いや希望等を探り出し、職員が周知できるように努めている。	・日常の会話から利用者の思いや意向を把握している。 ・理美容に出かけたり、買い物や散歩など外に出たいとの希望が多い。 ・表出困難な利用者の場合は、表情などから思いを察し、確認するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みのもの、場所等に目を向けており、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方や、心身状態、能力の現状の把握に努めている。計画作成担当者が意見を取り入れプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのケア会議では、職員がプランを評価し、次のプランに必要な意見や提案ができる場としている。家族の意見は、来訪時や運営推進会議に出席されたときに伺っている	・事前に医師・看護師のアドバイ ス、家族の意見を把握して、職員全 員が出席してケアカンファレンスを 開催している。 ・モニタリング結果について全職員 が意見を出し合い、介護計画を見直 している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別の「ケアノート」があり、心身的な状況面だけではなく、精神面の変化も記入することにより必要な関わりや医療連携を図り、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本年度は、神輿中心の祭りだったため、手伝うことは出来ず。来年度は縁日になるため、行事準備などが行えれば、社会参加につながると考えられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一番身近な社会資源は町内会であり、施設運営に協力してもらっている。ボランティアの受け入れもしており、多くの人と触れ合う場としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と連携している医療機関あり、月2回の訪問医の往診、週1回の看護師の訪問と歯科往診を行っている。	・協力医(内科)の月2回往診、歯科医の月1回の往診、訪問看護師の毎週の健康確認を受けている。 ・従来のかかりつけ医を利用する場合は基本的に家族が付添い、申し出があれば職員が支援することがある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、24時間365日の医療・看護体制ができており、適切な受診を行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、病院関係者と情報共有し、適切に退院につながるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方については、重要事項説明書に記載があり、説明時に読み上げ、同意を得ている。	・「重度化した場合の対応に係る指針」があり、入所時に家族・本人に説明している。 ・重度化した場合は、医師、看護師、家族と密に連携して対応する用意があるが、ここ数年は全員健康であり、看取りはない。	・重度化した場合やターミナルに備えて、ケア方法や心構えについて看護師や経験者による職員研修を行うことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災報知器の操作方法などを職員に落とし込み対応や方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月22日消防訓練を予定している。地域住民や警察官も協力していただける。	・夜間想定を含めて利用者が参加し、年2回避難訓練を行っている。 ・消防署員、警察署員、町内会関係者が立ち会っている。 ・携帯食料、水の備蓄3日分を確保している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフカレッジにおける研修が行われ、中・横浜の人権宣言として「出来ることを大切にし見守る」と決めた。	・設置法人の基本理念を基に尊厳について全職員で「人権研修」を行い、施設の人権宣言「出来ることを大切にし見守る」として事務室に掲示し、実践に努めている。 ・人生の先輩として敬意を払い、名前の呼び方は「～様」としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本位の生活が行えるように、入居者の思いをくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の流れを優先せず、利用者一人ひとりの生活のリズムの流れになるように支援していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望を聞き、外出時や誕生日には おしゃれして外出している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを把握しながら調理への参加、食事準備や片付けへの参加の支援ができている。食事に集中できるように、食事開始30分くらいは、テレビを消し音楽を流している。	職員が作成した献立を基に毎日利用者と職員が買い物に行き、利用者の好みを聞いて献立に反映するなど柔軟に対応している。 ・利用者は一人一人の力を活用し、食器洗いや野菜を刻むなど職員と一緒に出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量、バランス、水分量が一日をと押し確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医、歯科衛生士と連携をしながら、一人ひとり口腔状態にあわせ、能力にあったケアを実践している。		
43	16 w	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な誘導だけでなく、排泄パターンや習慣を理解し、声掛けしながら行っている。	・「バイタル・食事・排泄表」を基に、排泄パターンの把握に努め、羞恥心に配慮し個別に対応している。 ・オムツの使用を極力控え、手引き歩行やシルバーカーを利用し、一人一人の力や排泄習慣を活かし、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と10時にはバナナヨーグルトを提供している。 無排便が多くなった入居者には、おやつ時、牛乳を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者は週に2回を入浴を基本としている。慌ただしくならないように1日に3人までとしている。午前・午後や一番風呂希望にこたえている。	・週2回以上、1日3人までを基本とし、一人一人の気持ちや習慣に合わせて時間帯や入る順番に配慮して、入浴を支援している。 ・入浴を嫌がるときは、無理強いせず、翌日に改めて声かけしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息していただいている。夜間眠れるように日中の活動量にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について理解しており、誤薬のないように管理、指導している。服薬の管理方法を掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や強みを生かし役割を行って頂き、楽しみとすることを活動に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩などが外出の機会を増やしている。散髪も外出の機会と考えている為、訪問理美容は利用していない。本年度、家族会でマリントワーに行き、ナビオス横浜でランチビュッフェを楽しんだ。	・利用者と職員が順番にその日の食材の買い物に出かけている。また地域の夏祭りに参加したり、利用者の希望を聞き、外出支援している。 ・家族の協力を得て、マリントワーに出かけたり、近隣の保育園や介護施設へ出向き、交流を深めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金があることで安心感を持たれている方もいます。管理者が預かり、必要に応じて迅速に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には娘に電話をしたいという方もいる。度々となる事はないので希望のあるときは取次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色やデザインは統一性を重視している。生花を飾ることにより、香りや季節を感じるものになるようにしている。	・夏、冬の温度、湿度の基準を設定し、テーブル、ソファ、大型テレビを配置し、ゆったりしたリビングにしている。生花を飾り、床が磨き上げられ、清潔感が感じられる。 ・利用者の性格や相性を配慮した席で、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置に配慮しています。性格や認知症の症状の違いはあるが、話しやすい方同士の座席になっている またソファは2箇所あり、ゆったり1人で過ごせる場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、使い慣れた家具やテレビなど自分好みに応じた備品を持ち込んでもらっている。居心地のよい空間作りを心がけている。	・エアコン、ベッド、カーテンが備え付けられ、利用者は馴染みの家具やテレビ、仏壇、家族の写真などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。 ・居室の清掃は本人と居室担当が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあることで、自立歩行が困難な入居者でも、伝え歩きができています。キッチン作業はほとんどの入居者が経験あり、「台所」好きな場所になっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 クロスハート中・横浜

作成日 //

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	これからグループホームで看取るケースも増えてくることも考えられ、慌てずケアが出来る必要がある。	スタッフ皆がターミナルケア→エンゼルケア→グリーフケアを理解し実行ができる。	訪問看護師による研修を行ってもらい。管理者が看取り研修に行き理解を深める。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。